



中日文化センター訪問

京都美術工芸大教授 村上隆(りゅう)さんは、京都国立博物館学芸部長だった今年一月、「卑弥呼の鏡」といわれる三角縁神獣鏡は「魔鏡」だったと解明して注目された。栄中日文化センターで七月から始まる「古代鏡復原からみえるもの」

『モノづくり』の原点を探る」は村上さんを講師に、古代人の「驚きの技術力」に迫る。

京都大工学部と大学院、さらに東京芸術大大学院で学んだ村上さん。鏡面に太陽光を反射させると裏の文様を映し出す「魔鏡現象」

驚異の古代人技術力 「卑弥呼の鏡」に迫る

の解明は、犬山市の東之宮古墳から出土した三角縁神獣鏡を、レーザーや3Dプリンターなどで精密に再現して



「古代人の技術のすごさを紹介したい」と語る村上隆さん＝京都府南丹市の京都美術工芸大で

計三回の講座は「現代のハイテクで探る古代のハイテク」「のぞいてみよう、古代の超絶技術」「古代青銅鏡に映ったものは」と進む。村上さんの最新の復元技術の解説はもちろんだが、注目はむしろ古代人の手の技の方

と村上さん。各地の古墳から出土するイヤリング(耳環)には、電子顕微鏡でようやく確認できるほどの細かい技術が隠されているという。「ライトもループもないのに、なぜ古代の人はすごいのか、みんな考えてみましょう」と誘う。

講座は月一回土曜午後一時三十分からで、三カ月分六千六百元(税別)。新入会は入会金二千五百円(同)別途必要。申し込みは同センターフリーダイヤル(0120)538164へ。